

イリスコミュニケーション株式会社

取材：2023年6月

知財に関するアドバイスを受けながら
すべての人に彩りある世界を届けたい

研究開発型ベンチャー企業であり、IRISHUE（イリスヒュー）という
個々人の明るさの感受性を含む色覚特性を
簡単かつ定量的に測定できる世界初のシステムを開発。
「アーレン症候群」などまぶしさを感じる人や
色覚に不便を感じている人など、すべての人に心地よい明るさで
色彩豊かな世界が見えるレンズをオーダーメイドで提供している。

主な権利

2018年：特許 第6440054号
2021年：特許 第6850952号
2022年：特許 第7045674号
2019年：商標登録 第6203192号

会社概要

所在地：東京都千代田区内神田 3-24-4
ナインステージカンダ 1F
電話：03-6822-9168
URL：https://iris-cmm.com
業種：視覚メカニズムに関する研究・開発・
製造・販売など
設立：2014年（平成26年） 資本金：510万円



代表取締役：矢野 雅文さん（中左）
取締役：伊藤 千絵さん（中右）
浅見 日和さん（左） 涌田 明夫さん（右）

「まぶしさ」によって多くの
可能性が妨げられている

「大人が気づいてあげられない」ことや
「大人が寄り添っても大きな改善につながらない」ことが、多くの子どもたちの
未来を妨げている。目に入る「まぶしさ」
のせいで、可能性を奪われてきた子ども
たちがたくさんいる。光過敏症とも呼ば
れる「アーレン症候群」に、多くの人が悩
まされていることをご存じだろうか。本
を読んだりノートに文字を書くだけで極
端に疲労したり、頭痛や吐き気がしたり。
子どもの学習障がいの原因の一つとして
も、最近注目されている。

「受験会場で、コロナ対策のために立
てられた白いパネルがまぶしすぎて、普
段の力を発揮できなかったという子もい
るんです」と、伊藤取締役はまるで自分
のこのように残念そうに語る。しかし、
ある眼鏡レンズをかけることで、「自力で
絵が上手に描けるようになった」「読むこ
とが夢だった小説を、一冊全部読みきる
ことができた」といううれしい声もたく

さん届くようになった。そのレンズが、
イリスコミュニケーション株式会社が開
発した「IRISHUE」である。

災害に強いネットワークと
生体医工学を通じた強い絆

「IRISHUE」は、個々人の明るさ知覚・
色覚特性を定量的に測定する独自装置・
手法と測定結果に基づいた同社オリジナ
ルのレンズ。このレンズで眼鏡を作ると、
アーレン症候群の人は明るい場所でも快
適に過ごせるし、いわゆる「色弱」の人は
色の区別がしやすくなる。それぞれの人
にフィットした「見え方」は、世界を変え、
その人の可能性を広げていく。

そんなレンズを生み出したのは、脳の
適応メカニズムの権威であり、東北大学
名誉教授である矢野社長だ。

矢野社長と伊藤取締役の出会い、東
日本大震災の復興事業を通してだった。
災害に強いネットワークを構築するとい
うテーマで当時IT系の仕事をしていた伊
藤取締役が、東北大学で生体の情報処理

のメカニズムを研究していた矢野社長と
出会う。「今やっていることと違うと言わ
れるかもしれませんが、東北大学に『生
体医工学』というジャンルがあり、いろ
いろつながりがあって、視覚に関する
研究を行うことになったのです。視覚に
は3つの要素（視力・明るさ・色彩）が
あり、視力については研究が進んでいま
すが、明るさと色彩に関してはなかなか進
んでいないのです」と矢野社長は語る。

社会との接し方を一緒に考え
力になったアドバイザー

この研究を進め、会社を立ち上げ、レ
ンズの製品化にこぎ着けた。当然、大切
になってくるのは知財である。知財セン
ターの外国特許出願費用助成事業を活用
したのは2018年。その後も2019年に外
国商標出願費用助成事業、2020年にはグ
ローバルニッチトップ助成事業を活用し
た。矢野社長はこう語る。「知財センタ
ーに費用を助成してもらい、事業化の後押
しになったと感じます。研究だけに留ま

■ぼやけてみえる

吾輩は猫である。名前はまだ無
い。どこで生れたか人と見当
がつかぬ。何でも薄暗いじめじ
めした所でニャーニャー泣いて
いた事だけは記憶している。

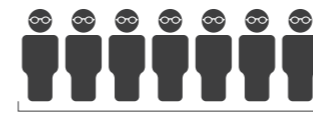
■文字が回転して見える

吾輩は猫である。名前はまだ無
い。どこで生れたか人と見当
がつかぬ。何でも薄暗いじめじ
めした所でニャーニャー泣いて
いた事だけは記憶している。

■文字が揺れて見える

吾輩は猫である。名前はまだ無
い。どこで生れたか人と見当
がつかぬ。何でも薄暗いじめじ
めした所でニャーニャー泣いて
いた事だけは記憶している。

光に対する感覚過敏のため、まぶしさを感じて、文字を読んだり書いたりするのが困難な人がある。「アーレン症候群」と呼ばれ、文字がぼやけて見える、回転して見える、揺れて見えるなど、その症状はさまざまである。



日本の眼鏡人口は
約7,000万人



アーレン症候群と一般的でない
色覚特性をお持ちの方は
約1,077万人

アーレン症候群の人は日本人の約6%
と推定され、一般的でない色覚特性を
持つ人は日本人の男性の約5%、女性
の約0.2%と推定されている。その合計
は約1千万人にもなる。



オフィスには「IRISHUE」の眼鏡サロンを併設。多くの
人が訪れやすい神田の大通り沿いに位置している。



「IRISHUE」は、アーレン症候群や一般的でない色覚特性を
持つ人をはじめ、すべての人に心地よい明るさで色彩豊かな
世界が見えるレンズを提供している。

らず製品まで作り、社会との接点を得る
ことはとても大事です。原理から探ること
と、現場から問題を追うこと、その両
方を合わせることは重要です。私はビジ
ネスの世界は知りませんでしたし、社会
との接し方を一緒に考えてアドバイスし
てくれると、研究もさらに進み、本当の
意味で社会に役立つと実感します。世界
規模で考えると10億人を超える人々が対
象ですし、引き続きしっかりした研究を
行わなくてはなりません。そうした意義
を知財センターに認めてもらった気がす
るのです。資金的な支援だけでなく、
さまざまな展開の助言までもらい、他の
企業や組織との契約などについてアドバ
イスを受けたのも大きな力になりました」

将来を見据えた海外展開が
知財など全体の戦略に大切

伊藤取締役も、こう続けた。「当社のよ
うな小さな会社では、なかなか知財戦略
だけに人材などのリソースを割くことが
できません。それに知財戦略は難しく私

たちには経験ありませんから、知財セン
ターのアドバイザーから経験も交えた
親身なアドバイスをもらえたことは貴重
でした」

さらに矢野社長の「海外展開という面
では、例えば中国や台湾における特徴な
ど、国ごとに異なる対応についても助言
してもらいました」という言葉に続けて、
伊藤取締役からは「知財戦略からも将来
をどう見据えて展開していくかが重要だ
と感じました。また海外での知財の取得
はとてもお金がかかりますから、グロー
バルニッチトップ助成事業を活用できた
のは本当にうれしかったです」という実
感のこもった言葉が寄せられた。

見え方を変える力が
新たな明日の景色を見せる

知財
センター
から

海外展開や共同開発契約など幅広くアドバイス

当初から国内とともに欧米などでの事業を計画している中で、中国でど
のように事業を進めるべきかという相談をきっかけに知財センターを活
用いただくようになりました。著作権、意匠、ノウハウ秘匿などのアド
バイス、さらには他社との共同開発契約や共同出願契約に関する助言も
行いました。 担当：西郷アドバイザー

社名に付けられたイリス（IRIS）とは、
ギリシャ神話に登場する虹の女神。また、
目の虹彩という意味もある。すべての人
に彩りある世界を届けたいという、真っ
すぐな想いが伝わってくる。

最後に矢野社長は「私たちが行ってい
ることに具体的な効果があると分かるこ
とは、次の研究と事業展開の原動力にな
ります。これからも社会と一緒に、前へ
進んで行きたい。知財のことも含め、多
くの人からフィードバックをもらって、
そのサイクルによって前進したいです」
と力強く語った。

同社の真実を見ようとする想い、そし
て彩りある世界を見せてあげたいとい
う想いは、一人の、そしてたくさんの人
の見え方を変える力になっている。新しい
明日が、見えてきているのだ。